①対策について話し合う関係者（通学路合同点検）
②自転車を押しながら笑顔で登校する生徒たち
③交通量の多い交差点で安全な横断をサポート
④第三保育所で行われたべこちゃんクラブの様子
⑤スクールバスで登校する児童の様子
⑥道路の右側を一列に並んで登校する児童たち
⑦周囲に自分の存在を知らせる反射ストラップや反射シール

――「他人事」ではなく「自分事」

千葉県警察が発表した令和2年度中に起きた交通事故は、12，837件。前年度と比べると減ってはいるものの、テレビなどでは連日のように交通事故に関するニュースが取り上げられています。初めから交通事故を起こすことを前提に自動車や自転車を運転している人はいません。しかし、現実には悲惨な交通事故が起き、尊い命が失われてしまう現状があります。

――少しの油断が大きな交通事故に

通り慣れた道でも天候や時間帯などで、道路環境が変わります。「誰も見ていないから」「いつも平気だから」などの一瞬の気の緩みや「安全だろう」という思い込みが、危険の察知・周囲の確認をおろそかにする原因になり、取り返しのつかない事態に発展してしまうことを改めて認識することが大切です。

――みんなでつくる安全な町

交通事故は、普段の生活の中で誰もが当事者になる可能性があり、自分や相手の人生を左右する事態になります。しかし、交通安全に対する意識を高めて生活していれば、交通事故を減らすことができます。

一人一人が「交通ルールと交通マナーを守ること」「心に余裕とゆとりを持ち、譲り合いの気持ちを忘れないこと」を日頃から意識して、交通事故のない安全な町をつくりましょう。

場面別の交通事故を防ぐポイント

道路を歩くとき

歩行者の交通事故が多い時間帯は、自動車を運転する人がライトを付けるかどうかという日没頃、歩行者を発見するのが遅れてしまうケースが多いといわれています。夕暮れ時から夜間に外出するときは、明るい服装を身に付けることや反射材を身に付け、自動車などから発見されやすい状況を作ることが交通事故防止のポイントです。

また、交差点などでの飛び出しや横断歩道以外の場所を横断するという歩行者の交通ルール違反も原因の一つとなっています。道路を渡る際は、必ず横断歩道や歩道橋を渡り、無理な横断はやめましょう。

自転車を運転するとき

誰でも気軽に乗れる自転車ですが、道路交通法上では「軽車両」とされています。車両を運転している自覚を持つことが大切です。並走や二人乗りをしないなどの交通ルールを守るのはもちろん、傘さし運転やスマートフォンを操作しながら、イヤホンを付けながらの運転も危険の察知が遅れてしまうため、絶対にやめましょう。

また、歩行者と同様に暗くなると自動車などから見えにくくなります。前後のライトを点灯するだけでなく、黒い服装は避ける、反射材を利用するなど周囲から気付いてもらえるような工夫をすることが大切です。

自動車を運転するとき

自動車を安全に運転するためには、他の車両や歩行者など周囲にも気を配ることが必要です。普段は安全運転を心掛けていても、慌てていたり疲れていたりすると注意力が散漫になり、交通事故を起こしかねません。どんなときでも、適度な緊張感と心のゆとりを持って運転するようにしましょう。

また、雨天時や夕暮れ時など視界が悪い環境で運転をするときは、いつも以上に慎重な運転を心掛けることが大切です。薄暗くなってきたと感じたら早めにライトを点灯する、スピードの出しすぎに注意するなどの対策を取りましょう。

地域の役に立てる活動

山武交通安全協会芝山支部

交通指導員募集

山武交通安全協会芝山支部では、交通指導員を募集しています。やりがいのある活動がたくさんありますので、興味のある方はご連絡ください。

活動内容
・交通安全に係る街頭指導や啓発活動
・交通安全教育など

応募資格
芝山町に居住している方で、交通安全に興味のある方（年齢不問）

その他
・制服付与
・交通費および活動費支給

問合せ　総務課自治振興係
☎77-3903